

## 令和4年度 第1回北海道 Society5.0 推進会議 開催概要

### 1 日 時

令和4年6月2日（木）14：00 ～ 16：00

### 2 実施場所

ホテルポールスター札幌 4階 ラベンダー

### 3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

### 4 議 題

別添「次第」のとおり

### 5 議 事

#### (1) 議事1 会議の進め方

・事務局（北海道）から説明（資料1）

#### (2) 議事2 事例紹介

- ・「各国のデジタル活用戦略の動向と、今後のデータ戦略について」（関委員）
- ・「ひと・モノ・情報がつながるスマートシティ富良野」（西野委員）

#### (3) 議事3 令和4年度の取組について

・事務局（北海道）から説明（資料4）

#### (4) 議事4 令和4年度ワーキンググループの取組について

・事務局（北海道）から説明（資料5）

#### (5) 議事5 意見交換

・事務局（北海道）から説明（資料6）

##### 【委員からの主な意見】

<ワーキンググループについて>

- デジタル人材育成確保のメンバーとして、中小企業とよく接する金融機関の方を入れてはどうか
- 資料にはやるべきことが書かれていると思うが、これぐらいまで持って行きたいという指標が必要。資料自体にも数値的なものが入ってくるとわかりやすくなる。
- 農業などの専門分野の人材育成では、指導する立場の人がその知識を持つことが重要。
- デジタル人材育成・確保 WG について、今年度は少し具体的な柱になるものが必要。ラーニングアウトカム、学習をした人がそれで一体何が得られたのか、そういったことをセットにして、やはり議論を少ししていく必要がある。
- データをあげて連携して何かをやるとか、データを活用しようとか、なかなかリアリティがなくて、我々も実際うまく説明できないし、予算もなかなかとりづらい。そうした部分歯がゆさっていうものがあり、データ利活用っていう部分が、もう少しわかるような展開ができればなっていうふうに思っている。

<北海道 Society5.0の推進について>

- 今求められているのはデータプラットフォームとか新しくできあがるデジタルインフラでいろんな機能が実現されること。少し縦割り感が強いなって気がする。一つの北海道のその Society5.0 っていうのは、オープンデータ基盤、それから先ほどの FIWARE、データブローキングのその基盤があつてとか、何かそういうイメージがちょっと薄いという感じ。それを強化したい。
- 広域自治体のやるべきことというのは、いろんな基礎自治体が行っていることをうまくつなげていくということ。実際のビジネスでの実装フェーズに移そうと思うと、やはり技術以外の要素、まさにマーケットの考え方がすごく必要。やはり一つの自治体だけでそれに対して税金を払い続けてシステムを運用するっていうのは非常に難しい。適用できるエリアをどう広げていくかという考え方が必要。
- 北海道 Society5.0 をできるだけ地方で、先進的な取組をされているところにこうスポット当てるべき。今後は、例えば今まで、札幌でやっていたものを富良野でやると、そういうふうなことをやって、もうちょっと地方から発信するという機会を増やしたらいいかなと思う。
- 民間企業の技術を紹介するショーケースのようなものがあればよい。民間から行くのではなく、課題のある市町村から来てほしい。
- 今年度ノーステック財団さんと一緒に、北海道 I T 推進協会と、企業の D X 案件をたくさん作っていこうという取組をやっていく。札幌に限らず、地方でもやっていこうということで、地方での D X セミナーというか、その案件のキャラバンみたいなものを作っていこうという話をしている。
- (自治体では) どうビジネスモデルに乗るか、どう採算性が合うか、それをしっかりしないと、本当に持続可能にならないな、行政が補助金を支出するだとか助成するだけでも全然これでは持続可能性がないなということが大きな課題。
- 北海道 Society5.0、デジタル化を進めていくためには、ここが一番谷底の部分はどう埋めていけるのかというところが、我々がもっと議論して、考えなければいけない。
- I T の力、デジタルの力って、もうインフラなので、そのデジタルがあれば、救える命だったり、そういう不便さだったり、解決できることがたくさんあると思う。本当にデジタルに予算を使ってほしい。

<ドローンについて>

- 農業におけるドローンの利用は、まける農薬の指定が狭い。ドローンを普及していくためには農薬の開発や連携が必要